

# 2026年3月期決算説明資料

資本コストや株価を意識した経営の実現  
に向けた対応について（アップデート）

2026年5月12日



# 目次

---

- 1-1. ナラサキ産業グループの概要
- 1-2. ナラサキ産業グループの事業領域
  
- 2-1. 2026年3月期 連結業績
- 2-2. // セグメント別業績
- 2-3. // 財務状況及びC F 状況
- 2-4. // 営業利益増減分析
  
- 3-1. 2027年3月期 連結業績予想
  
- 4-1. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（アップデート）
- 4-2. P B Rの改善に向けた取り組み～R O E・P E Rの向上～
- 4-3. 成長戦略～グループ総合力によるソリューションの提供～
- 4-4. 成長戦略の進捗状況
- 4-5. 企業価値向上に向けた各戦略の実施状況
- 4-6. キャッシュアロケーション
- 4-7. 株主還元について（配当額・配当性向推移）

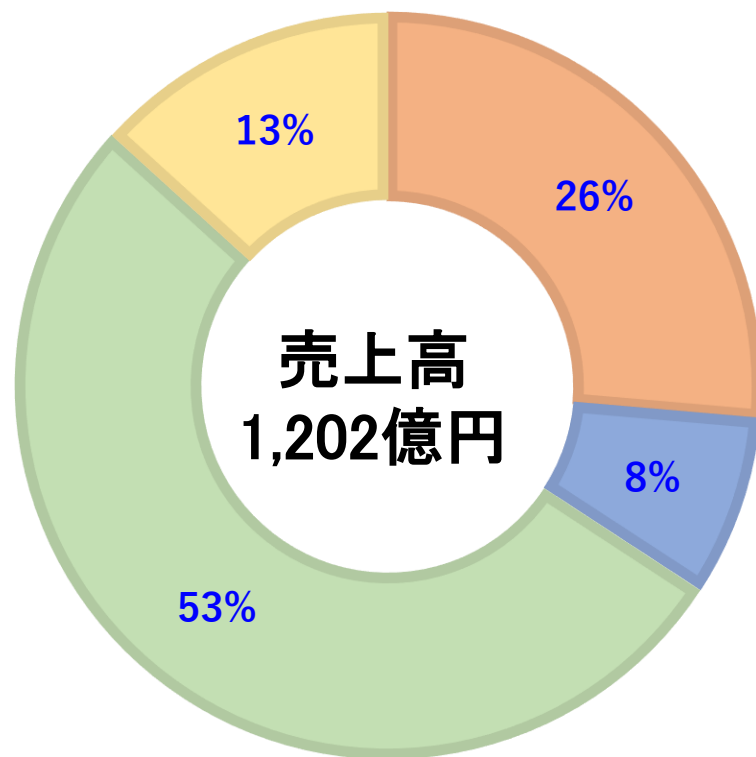
## 1-1. ナラサキ産業グループの概要

**経営理念** 「誠意をもって顧客の信頼を得る仕事をする」

<b>証券コード</b>	:	8085
<b>商号</b>	:	ナラサキ産業株式会社 (NARASAKI SANGYO CO., LTD.)
<b>所在地</b>	:	東京都中央区日本橋箱崎町19番21号 MSH日本橋箱崎ビル (登記上の本店所在地：札幌市中央区大通西7丁目3番地1)
<b>設立</b>	:	[創業] 1902年3月 [設立] 1943年10月
<b>資本金</b>	:	23億54百万円
<b>売上高</b>	:	[連結] 1,202億円 [単体] 1,017億円 (2026年3月期)
<b>関係会社</b>	:	連結子会社 4社 (国内3社、海外1社) 非連結子会社 5社 (国内4社、海外1社) 関連会社 6社 (国内6社)
<b>上場年月</b>	:	1963年4月 東京証券取引所 (スタンダード)、札幌証券取引所

# 1-2. ナラサキ産業グループの事業領域

2026年3月期 連結売上高



■ 電機 ■ 機械 ■ 建設・エネルギー ■ 海運

## 電機関連事業

機器・F Aソリューション関連  
建築設備・ファシリティソリューション関連  
F A・高機能材料関連

## 機械関連事業

農業施設関連  
食品・産業機械関連  
環境エネルギー関連

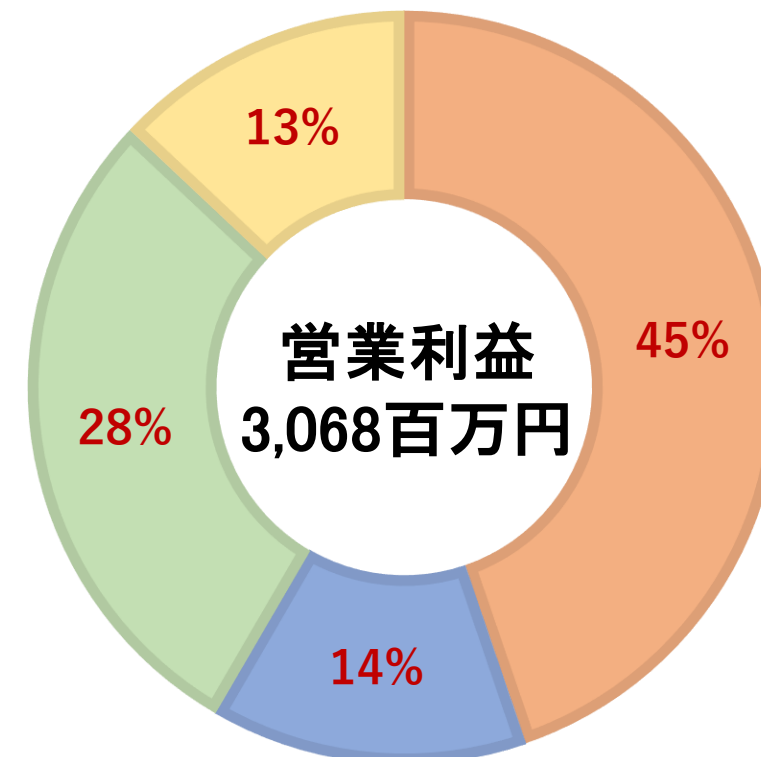
## 建設・エネルギー関連事業

建材関連(セメント系・建築系・土木系)  
エネルギー関連  
建設機械関連

## 海運関連事業

港湾中継(荷役・トラック・倉庫)  
国内輸送・国際輸送・通関・貿易  
海上輸送(一般貨物・セメント・ケミカル)  
代理・代行(船舶代理店・荷主代行)

2026年3月期 連結営業利益



■ 電機 ■ 機械 ■ 建設・エネルギー ■ 海運

## 2-1. 2026年3月期 連結業績

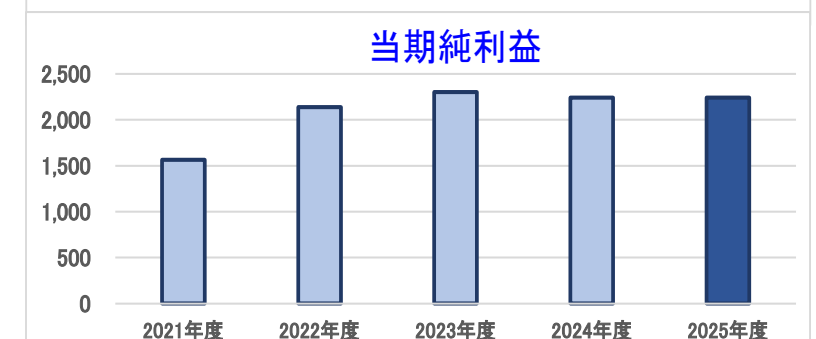
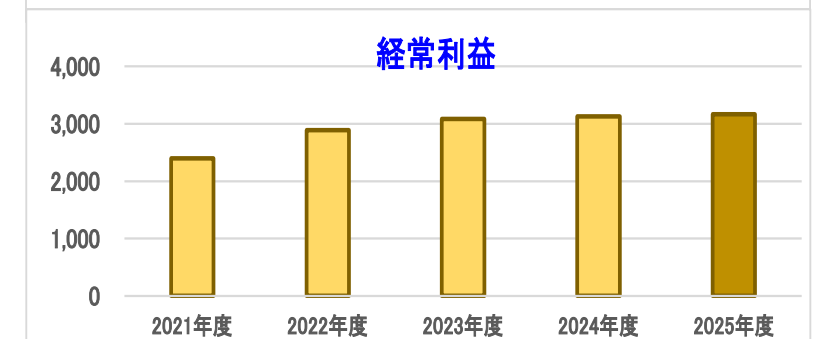
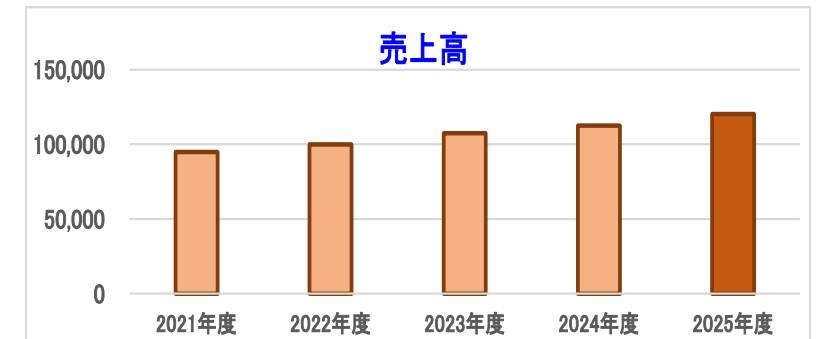
(単位:百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	増減額	増減率
売上高	112,512	<b>120,282</b>	+7,769	+6.9%
営業利益 (利益率)	3,062 (2.7%)	<b>3,068</b> (2.6%)	+5	+0.2%
経常利益 (利益率)	3,131 (2.8%)	<b>3,170</b> (2.6%)	+38	+1.2%
当期純利益 (注) (利益率)	2,241 (2.0%)	<b>2,242</b> (1.9%)	+0	+0.0%

(注)親会社株主に帰属する当期純利益

- 中期経営計画“NSクリエーション2026”2年目
- 売上高は前年比+6.9%、総利益は前年比+7.2%で、過去最高水準を更新
- 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益は、通期業績予想を下回ったものの、増益確保し、営業利益・経常利益はいずれも過去最高水準を更新

直近5年間の実績推移(単位:百万円)



## 2-2. 2026年3月期 セグメント別業績

(単位:百万円)

上段:売上高 下段:セグメント利益	2025年3月期	2026年3月期	増減	セグメント別の概況
<b>電機関連</b>	29,265 1,585	31,824 1,370	+2,559 △215	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建築設備分野では、活発なインフラ投資により、制御機器・空調機器の販売が堅調。</li> <li>● 生産設備分野では、生成 A I 関連は好調を維持し、レーザ加工機の輸出案件順調。</li> <li>● 総じて案件獲得順調も、半導体市場の復調遅れや一部に受渡しズレ込みの影響あり。</li> </ul>
<b>機械関連</b>	9,189 269	9,469 417	+280 +148	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 農業施設分野では流通合理化設備、産業機械分野では水産・環境関連設備などへの投資が活発で、建築費高騰の影響あるものの、両分野で受注獲得順調。</li> <li>● 特に、北海道地区では農水分野でのDX・GX関連需要を確実に捕捉し、実績伸長。</li> </ul>
<b>建設・エネルギー関連</b>	57,917 910	62,983 876	+5,066 △34	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建材分野では、北海道新幹線関連資材の出荷順調も、工程遅延などの影響あり。</li> <li>● 建設機械分野では、圧送関連機械の販売堅調ながら、工事需要やや停滞気味。</li> <li>● エネルギー分野では、需要減少で減販傾向だが、安定供給と配送効率化で採算確保。</li> </ul>
<b>海運関連</b>	16,140 317	16,005 398	△135 +81	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 半導体関連貨物やバイオマス燃料の取扱い好調、八戸新倉庫の稼働状況良好。</li> <li>● 人員不足や航路休止などの影響で貨物取扱いは伸び悩むも、業務効率化推進中。</li> <li>● 新設の苫小牧東港物流センターの活用、新商材・珪藻土シートの商品化に期待。</li> </ul>

(注1)売上高＝外部顧客への売上高

(注2)セグメント利益の合計額は配分していない全社費用等が含まれており、連結営業利益とは合致していない

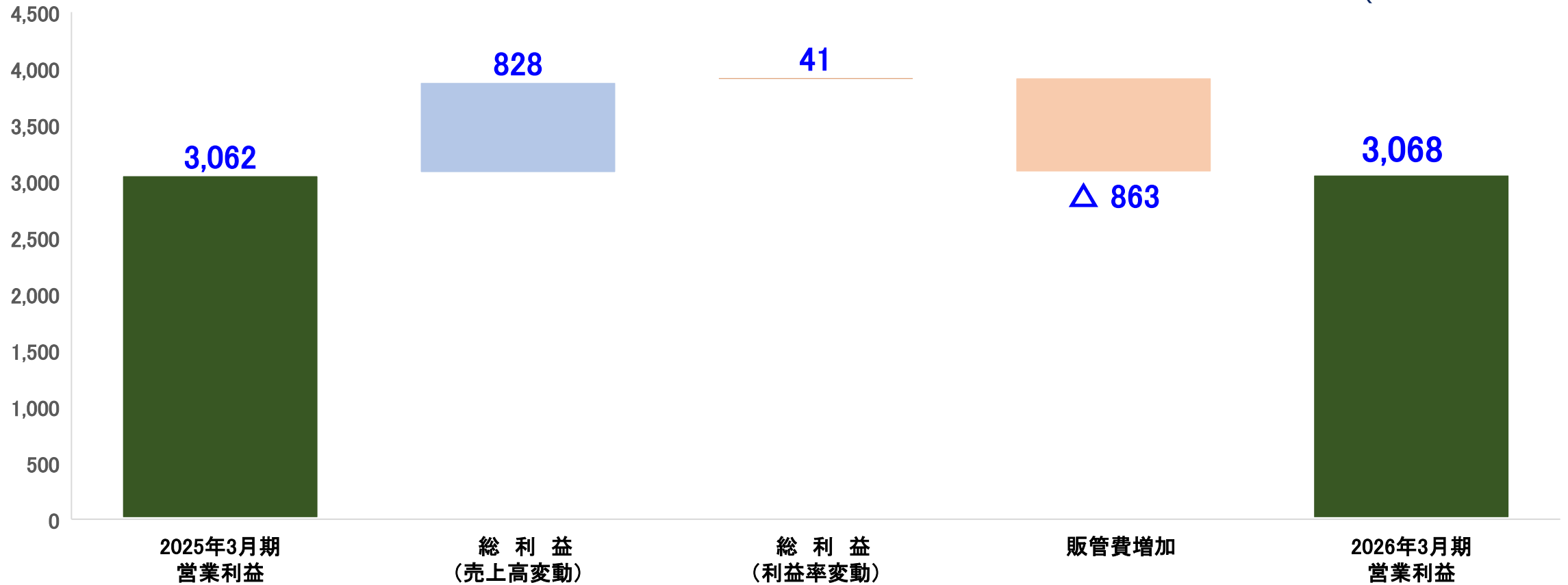
## 2-3. 2026年3月期 財務状況及びCF状況

(百万円)		2025年3月末	2026年3月末	増減	主たる増減要因
資 産	流 動 資 産	39,001	<b>41,900</b>	+2,898	現金・預金+855 受取手形・売掛金・契約資産△455 電子記録債権+712 商品+1,286 仕掛品+155
	固 定 資 産	17,478	<b>20,678</b>	+3,200	有形固定資産+943 投資有価証券+656 退職給付に係る資産+1,871
資 産 合 計		56,479	<b>62,579</b>	+6,099	
負 債	流 動 負 債	25,314	<b>27,808</b>	+2,493	支払手形・買掛金+3,172 電子記録債務△765 未払法人等+166 賞与引当金+124 契約負債△190
	固 定 負 債	4,464	<b>5,253</b>	+789	長期借入金・長期未払金+122 繰延税金負債+682
負 債 合 計		29,778	<b>33,062</b>	+3,283	
純 資 産 合 計		26,700	<b>29,517</b>	+2,816	株主資本+1,304 その他有価証券評価差額金+437 退職給付に係る調整累計+1,142

(百万円)		2025年3月期	2026年3月期	増減	キャッシュフローの主な要因
営 業 活 動 C F		61	<b>3,014</b>	+2,953	税金等調整前当期純利益+3,341 減価償却・長期前払費用償却+945 売上債権・契約資産増加額△276 棚卸資産増加額△1,423 仕入債務増加額+2,406 契約負債減少額△191 法人税等支払額△882
投 資 活 動 C F		△ 2,139	△ <b>1,736</b>	+403	有形固定資産取得による支出△1,249 定期預金の預入による支出△632 長期前払費用取得による支出△129 有価証券売却による収入+214
財 務 活 動 C F		△ 1,046	△ <b>1,034</b>	+12	長期借入に係る収入・支出(ネット) +362 配当金支払額△614 自己株式に係る収入・支出(ネット) △404 子会社株式の取得による支出△130
現金・現金同等物(期首)		15,048	<b>12,609</b>	△2,439	
現金・現金同等物(期末)		12,609	<b>12,852</b>	+243	

## 2-4. 2026年3月期 営業利益増減分析

(単位：百万円)

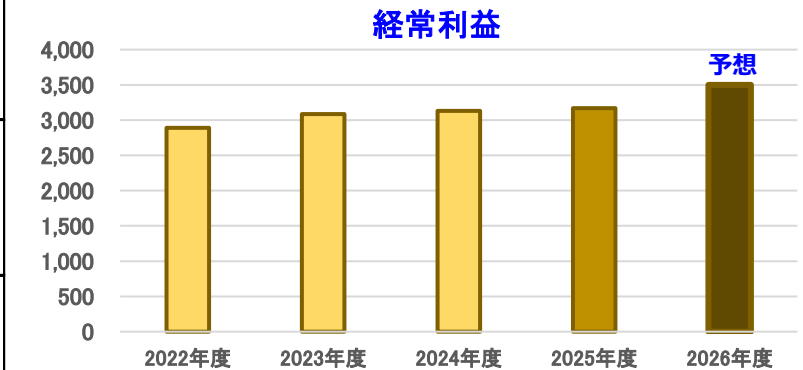
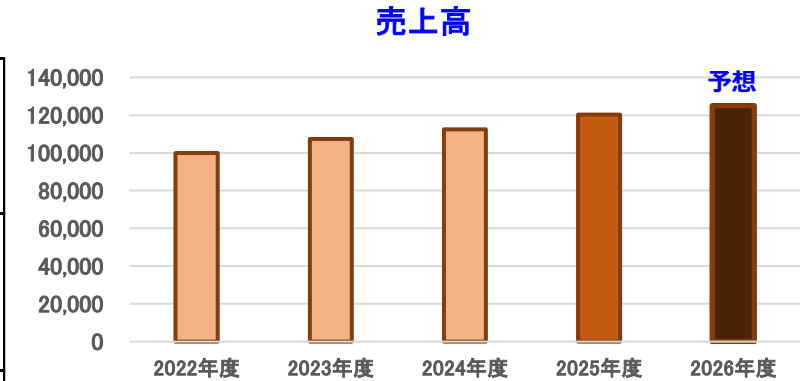


- 売上高増加及び利益率改善に伴い、売上総利益は869百万円増加（うち売上高変動828百万円）
- 基幹システム入替に伴う償却費増、北海道支社並びにナラサキスタックス(株)本社の移転関連費用の発生、給与改定に伴う人件費増などの要因により、販売費および一般管理費は863百万円増加

# 3-1. 2027年3月期 連結業績予想

(単位：百万円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減額	増減率
売上高	120,282	125,000	+4,717	+3.9%
営業利益 (利益率)	3,068 (2.6%)	3,500 (2.8%)	+431	+14.1%
経常利益 (利益率)	3,170 (2.6%)	3,500 (2.8%)	+329	+10.4%
当期純利益 (利益率)	2,242 (1.9%)	2,500 (2.0%)	+257	+11.5%

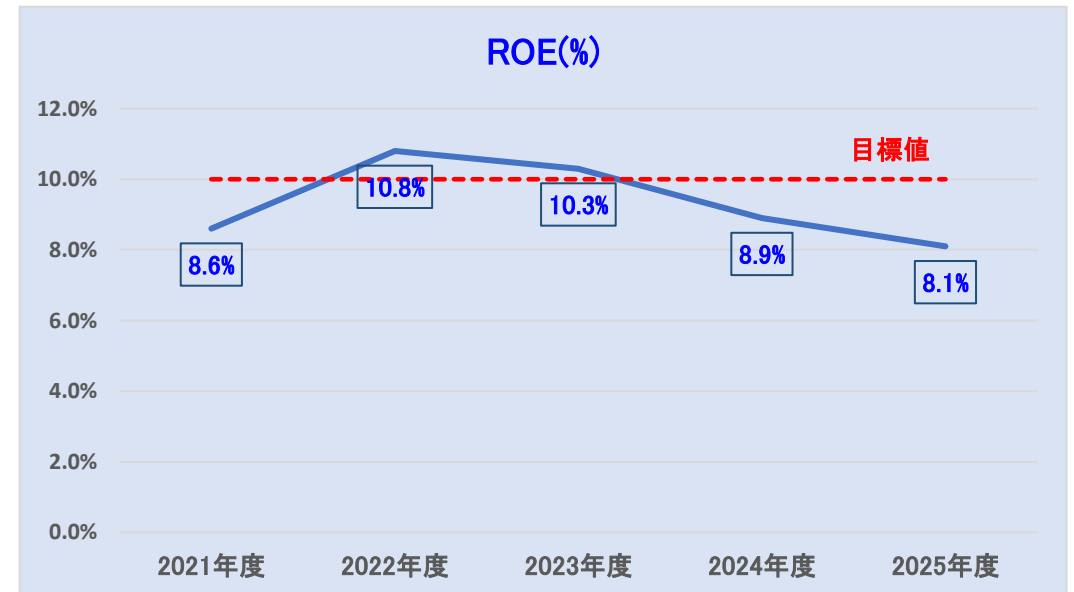
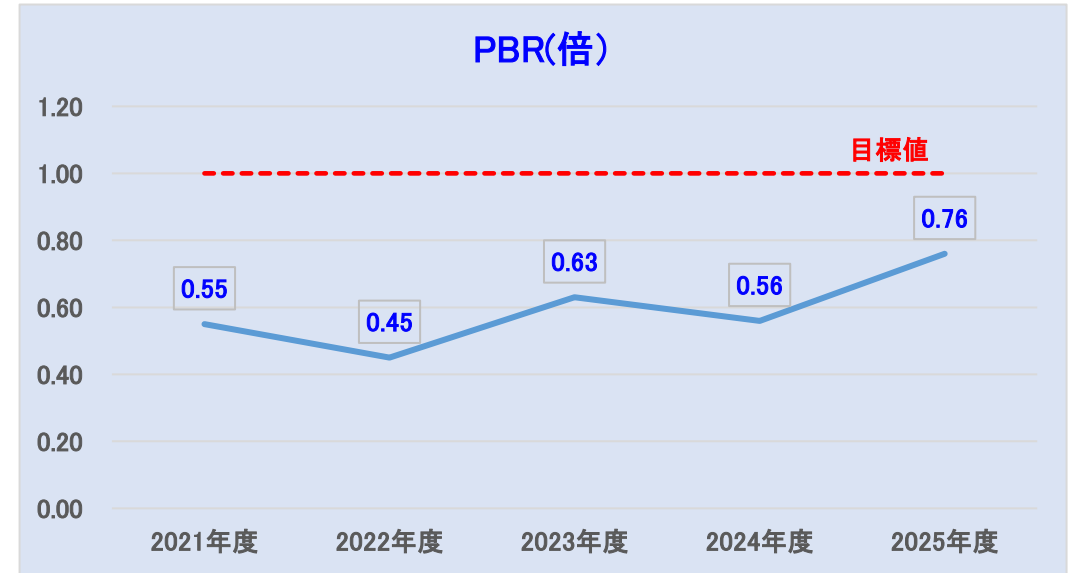
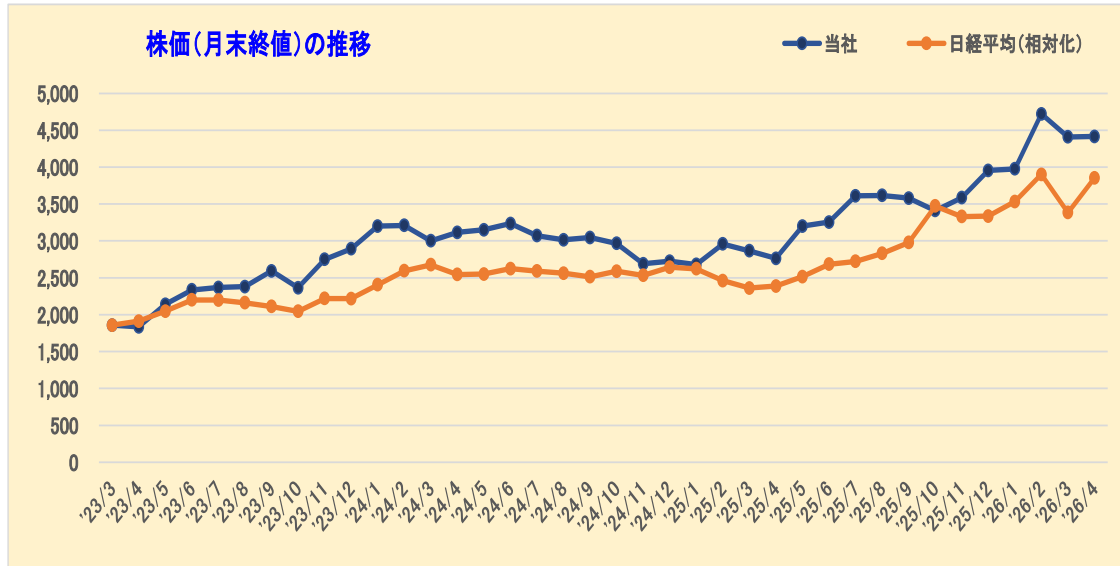


- 取り巻く事業環境は、緊迫化する国際情勢、資材・エネルギー価格の高騰、深刻化する労働力不足など、不透明な状況が続くものと認識。一方で生産性向上や脱炭素化を目的としたAI・DX・GX関連需要や国土強靱化に向けたインフラ整備のニーズは極めて高く、中長期的視点でのさまざまな取り組みが継続するものと想定。
- 事業環境の目まぐるしい変化に迅速かつ的確に対応するとともに、当社グループが「チームナラサキ」としての総合力を発揮することにより、売上高1,250億円、営業利益・経常利益35億円の達成を目指す。

# 4-1. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（アップデート）

## 現状分析：株価・PBR・ROEの推移

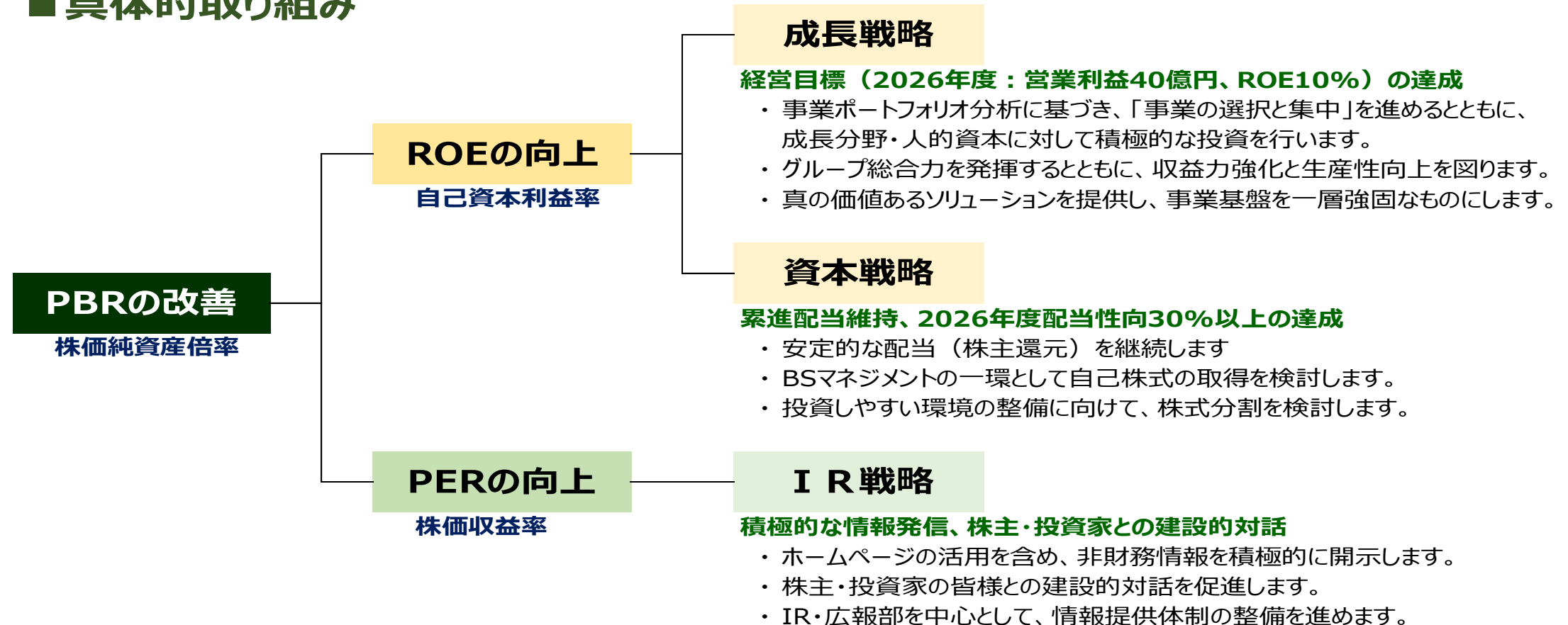
- ▶ 業績は安定推移し、財務基盤の改善が進んでおり、2026年3月期のPBRは0.76倍と上昇傾向ではありますが、目標値1.0倍を下回っています。
- ▶ 2026年3月期のROEは8.1%と自己資本増加により前年比0.8ポイント低下しましたが、資本コストを上回る水準を維持しています。（直近5年間平均ROEは9.3%）
- ▶ 当社株価は日経平均株価の上昇率を上回ってはいますが、1株当たり純資産（BPS）の増加分が十分反映されているとは言えず、「成長・資本・IR戦略」の更なる推進が必要であると考えます。



## 4-2. PBRの改善に向けた取り組み～ROE・PERの向上～

中期経営計画に基づく成長戦略を着実に実践することを通じて、事業価値を継続的に向上させ、PBR1倍超の早期実現を目指します。

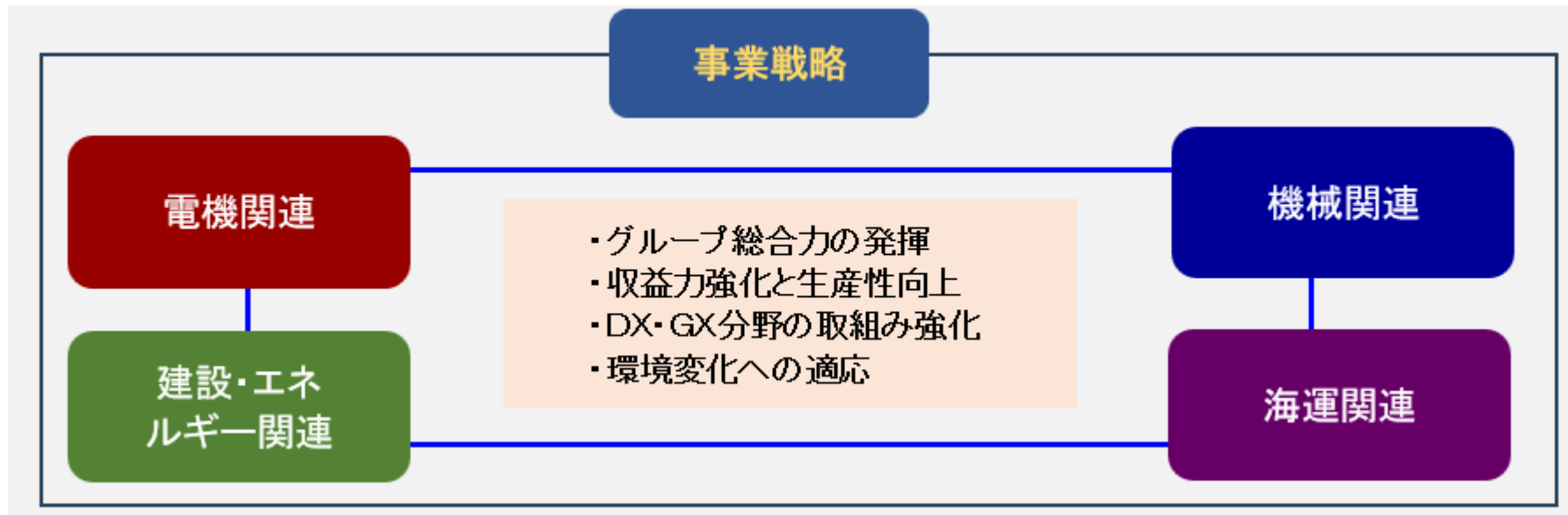
### ■ 具体的取り組み



## 4-3. 成長戦略～グループ総合力によるソリューションの提供～

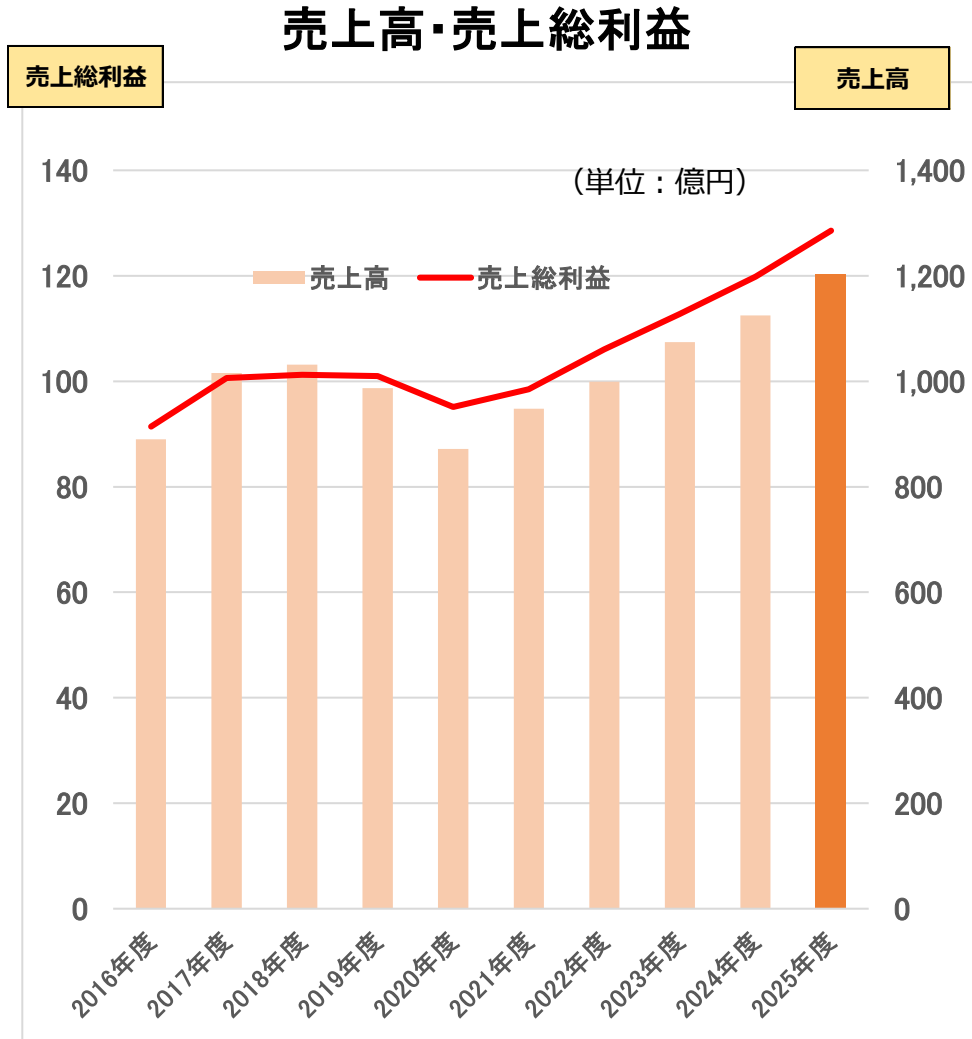
### 中期経営計画：事業戦略とグループ総合力の発揮

- ◆ 電機、機械、建設・エネルギー、海運の4セグメントをコア事業と位置付け、各事業セグメント間での情報共有化を推進し、連携・協業体制をなお一層強めることにより、更なる収益拡大に努めてまいります。
- ◆ 事業ポートフォリオ分析を通じて事業ドメインを明確にし、事業構造改革（選択と集中）を推し進めるとともに、成長ドライバーを基軸とした戦略・施策を積極的に展開してまいります。
- ◆ 事業環境の変化に適切に対応し、DX推進のための設備投資や環境・省エネ関連投資など、社会のニーズに基づく製品・サービスを提供してまいります。また、定型業務をはじめとした業務効率の向上を目的としてAI実用化を推進し、グループを挙げて業務改革にも取り組んでまいります。

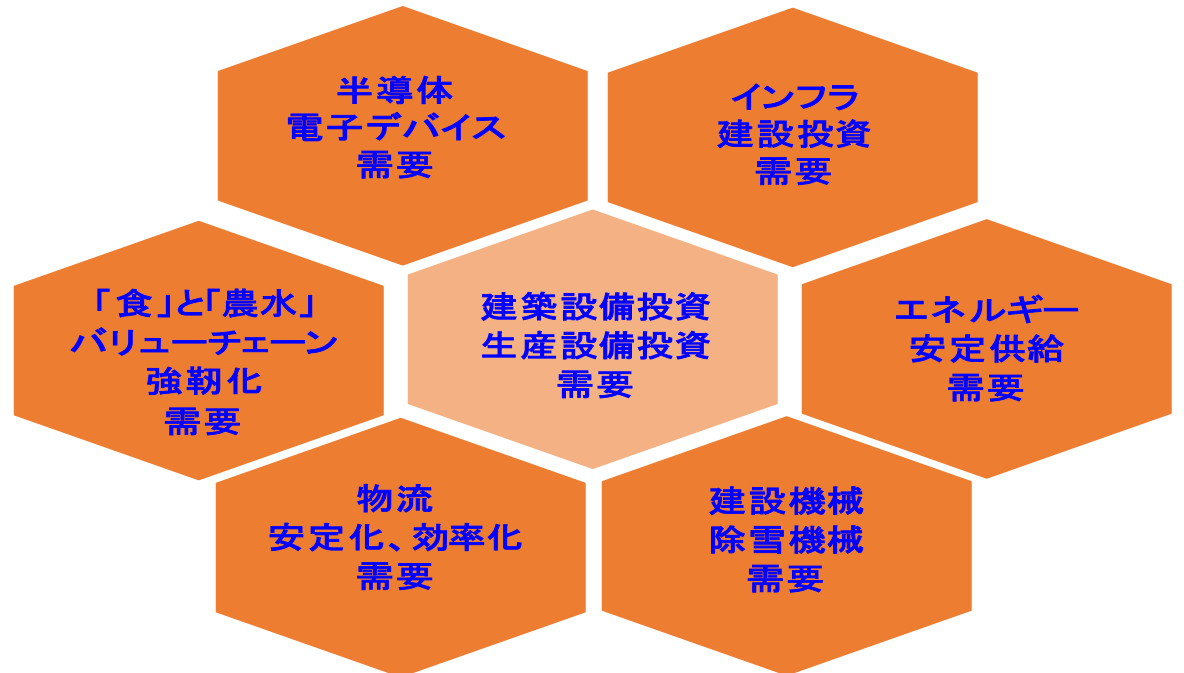


# 4-4. 成長戦略の進捗状況

## 成長戦略を支える複合セグメントと「チームナラサキ」のグループシナジー



- ◆ 売上高、売上総利益ともに過去最高水準を更新
- ◆ ベースとなる安定収益の確保に加え、成長市場における各種需要を捕捉する成長ドライバーが収益を牽引
- ◆ 多種多様な顧客とそのニーズに対応する複合セグメントと複合商品・サービスのワンストップサービス提供によるビジネスチャンス拡大を狙う



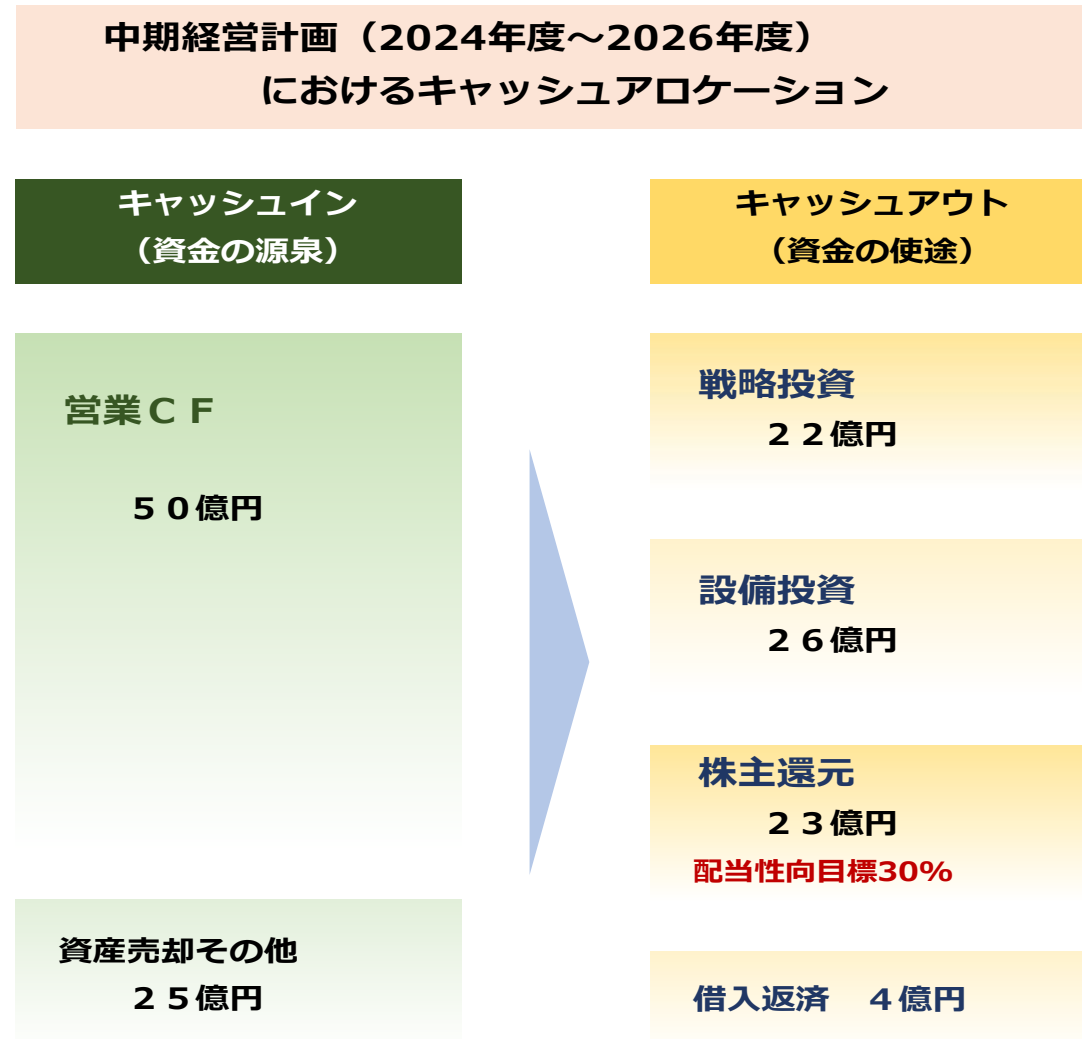
## 4-5. 企業価値向上に向けた各戦略の実施状況

### 中期経営計画：財務戦略・人事戦略・サステナビリティ戦略・IR戦略

戦略別	2025年度の実施状況	評価
財務戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 取適法の影響あるも、概ね想定通りの税引後償却前利益を確保（営業CF30億円超）</li> <li>▶ 安定収益を確保し、また連結B/S圧縮に努めた結果、自己資本比率は0.1ポイント改善し46.4%へ</li> <li>▶ 成長戦略投資並びに経常投資に関しては、グループ内資金を有効活用し、総資産圧縮に注力（主たる設備投資：基幹システム刷新、ナラサキスタックス本社新築、同社八戸新倉庫建設）</li> </ul>	○
人事戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 多様な人材確保を狙いとした採用活動を展開、研修内容の充実化や教育体系見直しも検討中</li> <li>▶ エンゲージメント向上に向け、給与改定、人事諸制度見直し、労働時間管理など、諸施策を展開中</li> <li>▶ 職場環境改善や機能的なオフィス作りを目指し、昨年度の本社移転に続き、事務所移転・リニューアル実施（ナラサキスタックス本社は新築移転、北海道支社・北関東支店・苫小牧営業所は事務所移転実施）</li> </ul>	○
サステナビリティ戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 事業セグメント毎に、環境ビジネスへの取り組み、インフラ整備事業への貢献のための施策を展開中</li> <li>▶ グループガバナンス整備に向け、全社対応リスクとして「コンプライアンス」「人材の確保・育成、働き方改革」に関する具体的施策を展開、コンプライアンス教育継続</li> <li>▶ 「Sustainability Report 2025」をホームページに掲載、グループ役職員の更なる意識醸成は継続課題</li> </ul>	○
IR戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ IR戦略・施策充実に向け、IR・広報体制見直し実施 株主・投資家とのIRミーティングは個別対応中だが、建設的対話促進に向けた取り組み推進中</li> <li>▶ 2025年3月期及び2025年9月中間期決算短信公表時に説明資料を同時開示、更なる内容充実へ</li> <li>▶ ホームページ活用による非財務情報開示充実、IRフェアなど各種イベントへの積極参加も検討中</li> </ul>	△

## 4-6. キャッシュアロケーション

### 成長投資と株主還元を実現する安定的 C F の創出を目指す



- ◆ 営業 C F
  - ・ 安定的利益を源泉とした安定 C F 創出力の維持拡大
- ◆ 資産処分その他による資金捻出
  - ・ 状況に応じて財務レバレッジ活用を検討（最適資本構成）
- ◆ 戦略投資
  - ・ 成長に繋がる戦略投資を実施
 [主たる投資分野]
  - ・ 物流関連の収益増強を企図した投資
  - ・ 業務効率化を目指した ERP システム投資
  - ・ 事業ポートフォリオの見直しなどを踏まえ M & A を含む成長投資を検討
- ◆ 株主還元
  - ・ 配当18億円、自己株式取得 5 億円

# 4-7. 株主還元について（配当額・配当性向推移）

## 資本戦略

### 【資本戦略（利益配分方針）】

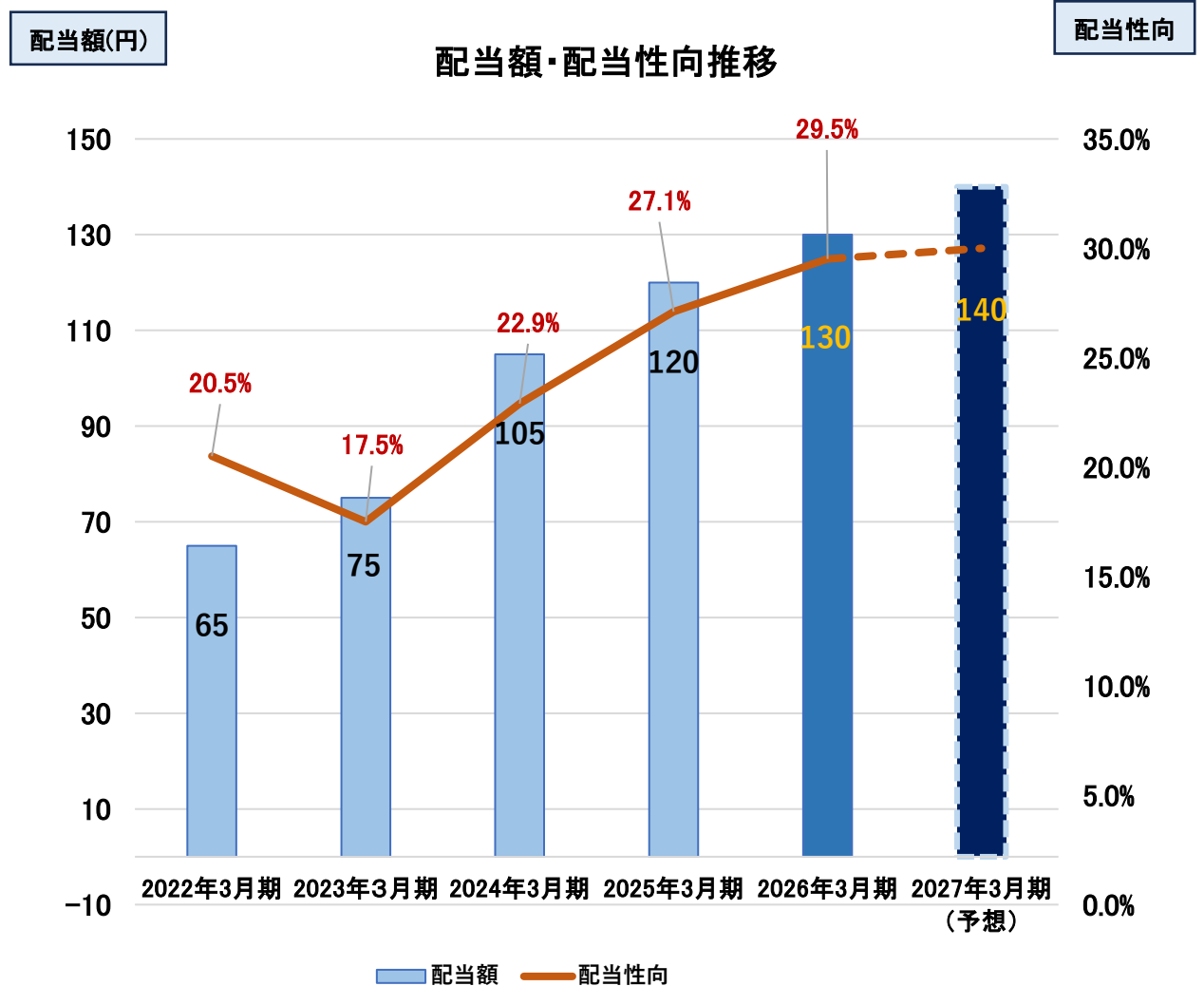
- ▶ 当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営政策と位置付け、安定的な配当を基本としつつ、収益状況・財政状態・今後の事業展開等を勘案し決定しています。
- ▶ また、累進配当を維持しつつ、2026年度における配当性向30%以上を目指しています。

### 【2025年度の配当実績】

- ▶ 2025年度の年間配当金は、前年比10円増の1株当たり130円、配当金総額650百万円、配当性向は前年比2.4ポイント増の29.5%となりました。これにより5年連続の増配を達成しました。

### 【2026年度の配当予想】

- ▶ 2026年度は10円増配の140円としています。



## 注意事項

本資料に記載されている業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。